

# 第3章 浦添市交通基本計画の基本方針

## 3-1 浦添市交通基本計画の考え方

- 現在、浦添市が抱える交通問題・課題の改善を目指すとともに、浦添市が目指すべき将来像の実現に向けた将来の交通計画を策定。

### 浦添市が抱える交通課題

#### ● 交通課題 1：体系的な道路網の構築

- 幹線道路網の構築
- 道路の段階構成
- 混雑交差点の改善
- 駐留軍用地等の新たな開発拠点における道路網の構築

#### ● 交通課題 2：公共交通の利用促進

- 利用しやすい公共交通機関、交通制度の導入
- 自動車利用から公共交通への転換

#### ● 交通課題 3：安全な交通環境の創出

- 既存道路空間の再配分
- 歩行者、自転車ネットワークの構築
- 生活空間における通過交通の排除
- 災害や救急医療に対応できる道路網の形成

#### ● 交通課題 4：交流機能の向上

- 交流拠点間の有機的な連携
- 各交通手段の有機的な連携（P&R 等）

#### ● 交通課題 5：魅力ある交通空間の創出

- 市民協働の景観まちづくりとの連携
- 交通施設のデザインの統一化

### 浦添市が目指すべきまちづくりの方向性

#### ■ 国全体の方向性及び動向

- 交通基本法
- 低炭素社会
- コンパクトシティ
- 観光立国
- 人重視の道路創造 等

#### ■ 沖縄県土全体及び中南部都市圏の上位関連計画

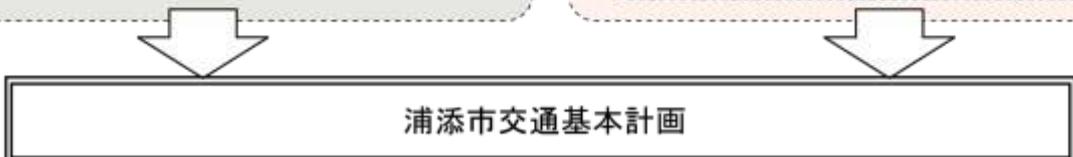
- 沖縄 21 世紀ビジョン
- 沖縄県総合交通体系基本計画
- TDM 施策推進アクションプログラム
- 沖縄県広域道路整備基本計画
  - ・ ハシゴ道路網
  - ・ 那覇都市圏交通円滑化総合計画
- 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
- 沖縄本島中南部都市圏都市交通 MP 等

#### ■ 浦添市の上位関連計画

- 第 4 次浦添市総合計画
- 浦添市都市計画マスタープラン
- 浦添市景観まちづくり計画 等

#### ■ 将来人口と交通の動向

- 将来人口の動向
- 将来交通の動向 等



## 3-2 浦添市の目指すべきまちづくりの方針

### 3-2-1 将来の人口と交通の動向

#### (1) 将来の人口動向

##### (a) 沖縄県と浦添市の人口の増加

- これまで、沖縄県、浦添市ともに人口は増加基調にあり、沖縄県は平成 37 年まで、浦添市は平成 42 年まで増加することが予測されている。
- 年齢構成を見ると、65 歳未満の非高齢者は、沖縄県は平成 22 年を、浦添市は平成 27 年をピークに減少することが予測されており、65 歳以上の高齢者は将来的にも増加基調にあることが予測されている。

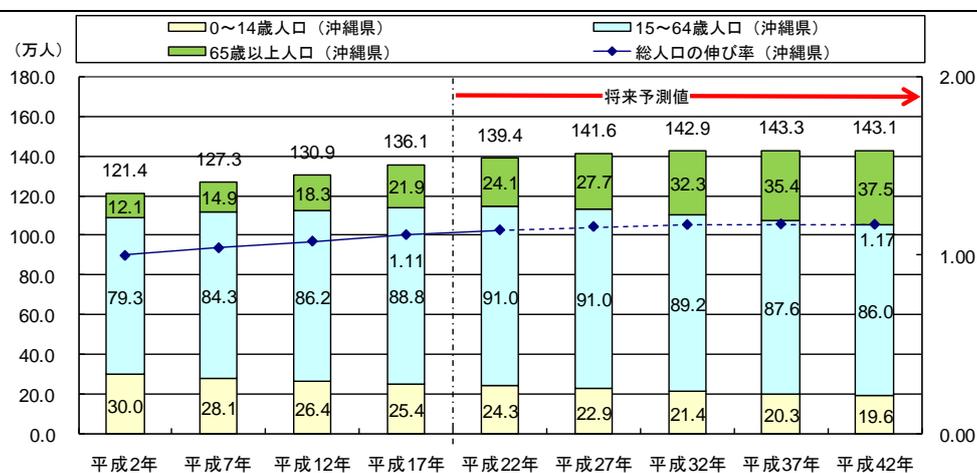


図 3-1 沖縄県の人口の推移<sup>133 134</sup>

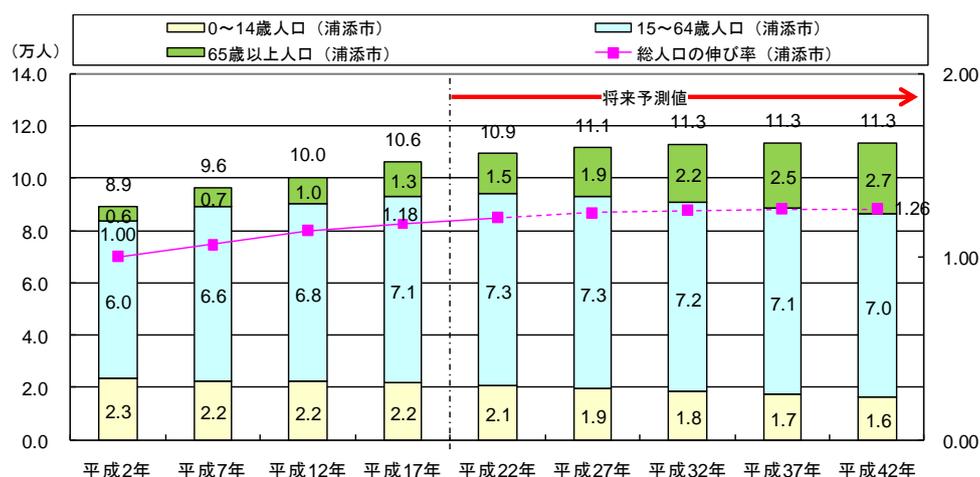


図 3-2 浦添市の人口の推移<sup>133 134</sup>

<sup>133</sup> 国勢調査（総務省，平成 2 年～平成 17 年）

<sup>134</sup> 市区町村別将来人口推計（国立社会保障人口問題研究所，平成 22 年～平成 42 年中位予測）

(b) 市町村別の人口の増減

- 中南部都市圏内の市町村の人口をみると、南城市、嘉手納町、北中城村を除く市町村で人口が増加することが予測されている。
- 浦添市は平成 17 年から平成 42 年にかけて、7%の増加が予測されている。
- 増加率が高いのは、沖縄市、豊見城市、宜野湾市、北谷町、中城村、南風原町となっており、その中に那覇市から沖縄市までの都市圏軸上の市町村が含まれている。

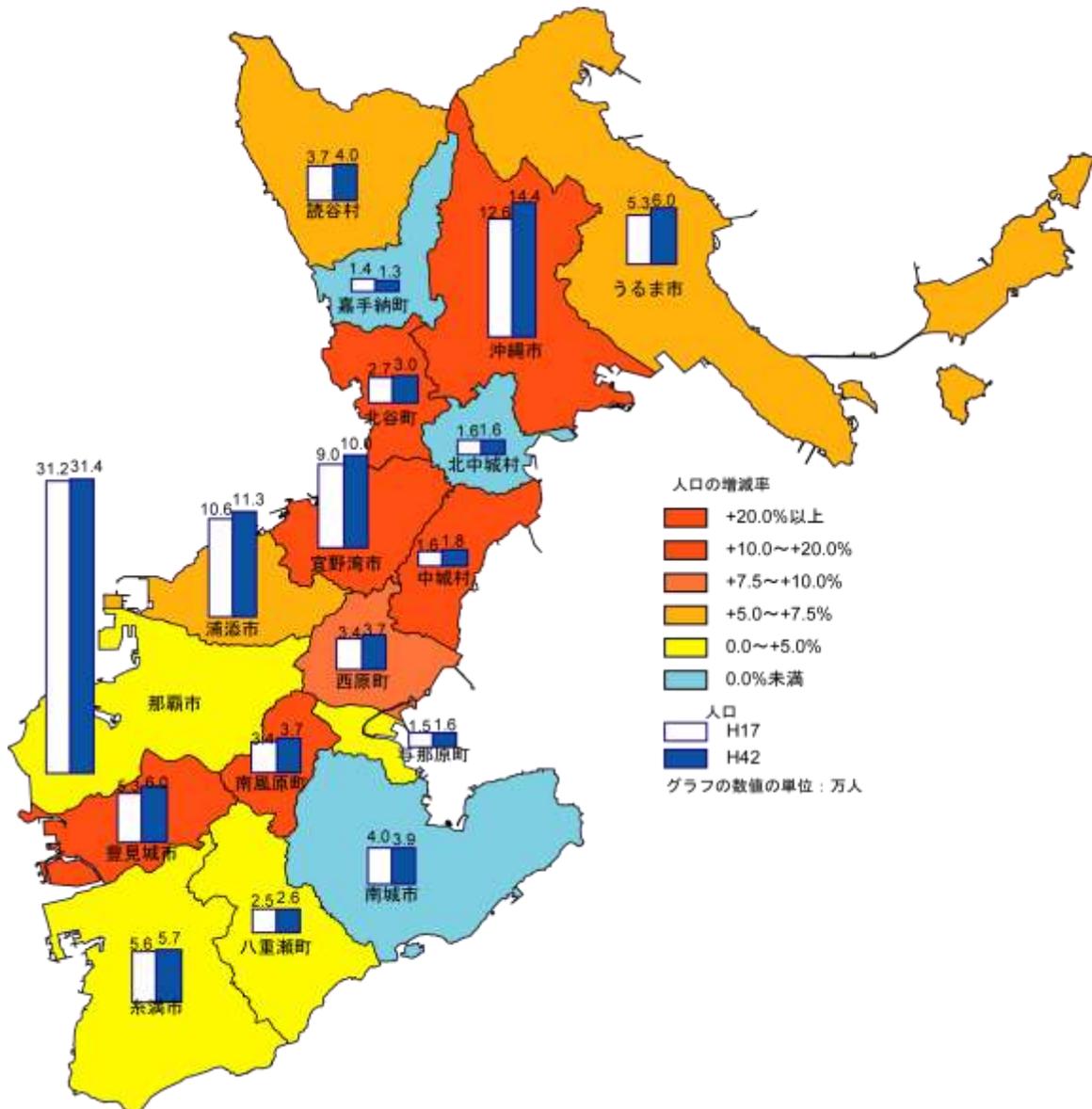


図 3-3 市町村別の人口増減<sup>135 136</sup>

<sup>135</sup> 国勢調査（総務省，平成 17 年）

<sup>136</sup> 市区町村別将来人口推計（国立社会保障人口問題研究所，平成 42 年中位予測）

(c) 浦添市内の人口増減（人口フレーム）

- 浦添市内では、平成 18 年から平成 42 年にかけて、全域的に増加基調にある。
- 返還が見込まれる牧港補給基地跡地や区画整理（浦添南第一・第二地区）が行われている前田・経塚・沢岬のあるゾーンで人口増加が 20%以上の増加と著しい。

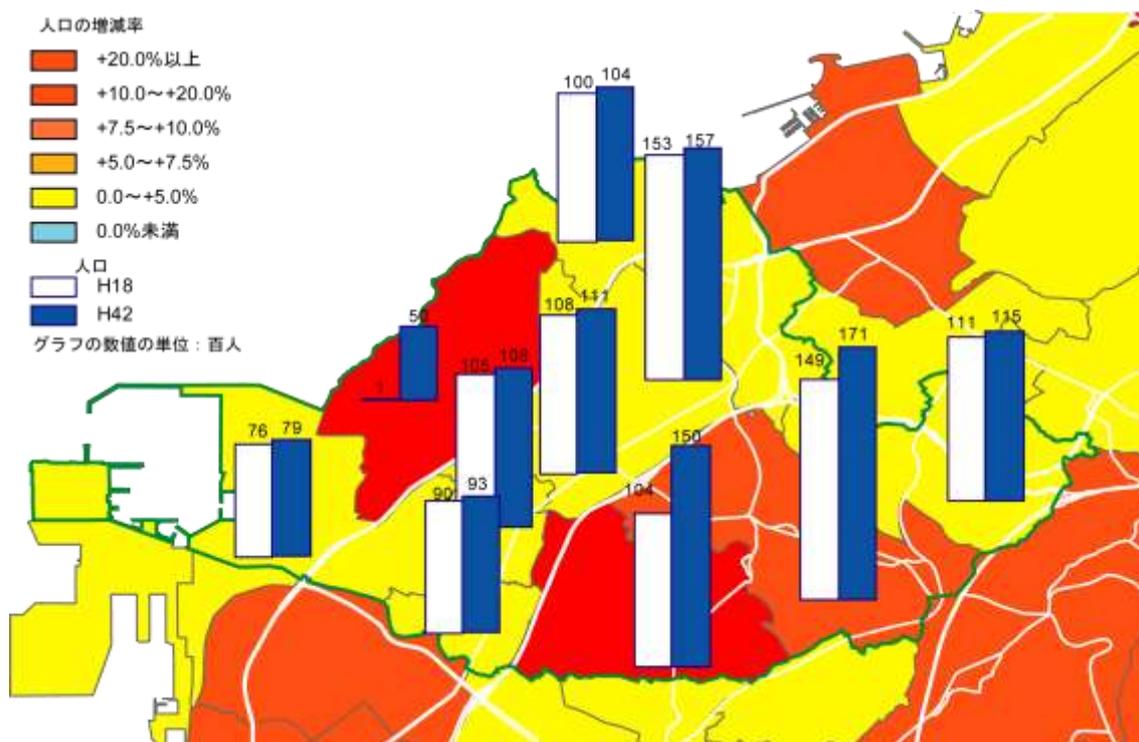


図 3-4 Cゾーン別の人口増減<sup>137</sup>

【人口フレーム】

パーソントリップ調査（PT 調査）では、交通需要予測を行うために、予測のベースとなる都市圏の人口を設定している。これを人口フレームと呼び、現況及び将来の人口フレームを設定している。なお、夜間人口の場合、PT 調査の対象年齢と同じ 5 歳以上の人口となる。

<sup>137</sup> 沖縄本島中南部都市圏 PT 調査（人口フレーム編）（沖縄県，平成 20 年度）

(d) 高齢者数の推移と高齢化率の変化

- 平成 17 年時点で浦添市の高齢化率は、中南部都市圏で 2 番目に低いが、将来的な高齢者数の伸び率は比較的高くなることが予測されており、平成 17 年に比べて、平成 42 年では 2.07 倍と中南部都市圏で 4 番目に高い結果が予測されている。
- 高齢者数が増加する結果、高齢化率も増加し、平成 17 年の 12% から平成 42 年では 24% まで高くなる。

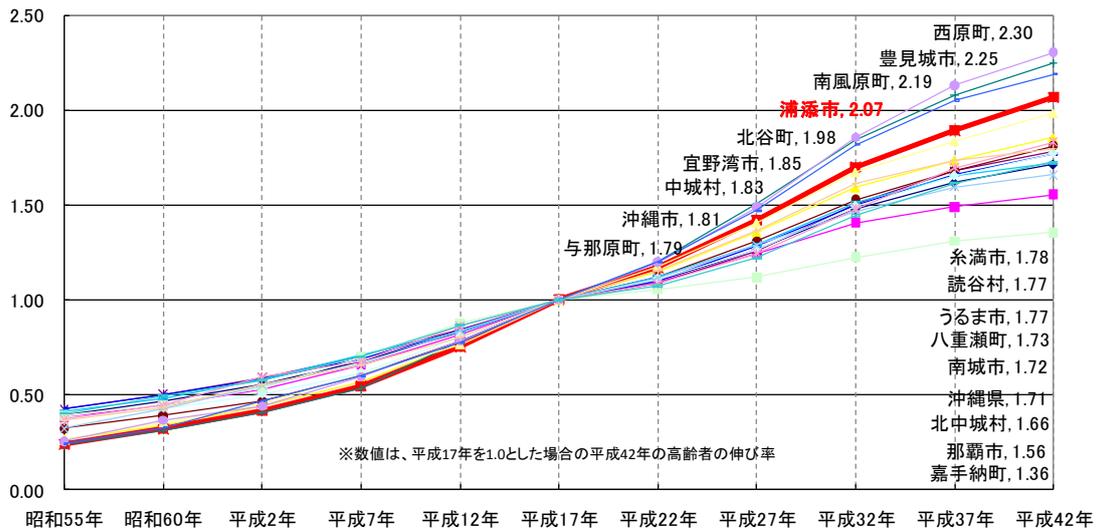


図 3-5 市町村別高齢者の伸び率<sup>138 139</sup>

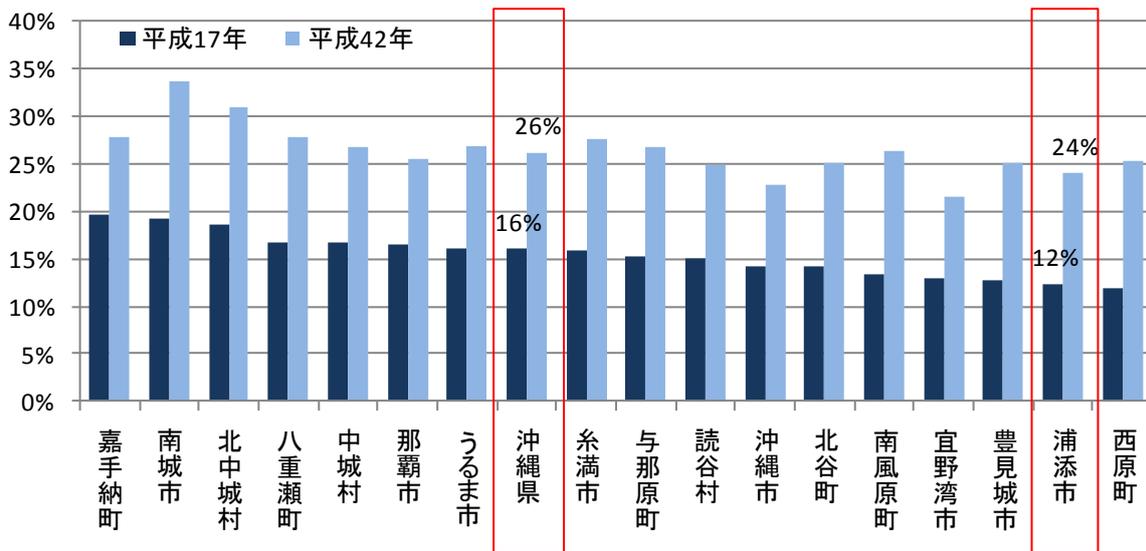


図 3-6 市町村別高齢化率の変化<sup>138 139</sup>

<sup>138</sup> 国勢調査（総務省，平成 2 年～平成 17 年）

<sup>139</sup> 市区町村別将来人口推計（国立社会保障人口問題研究所，平成 22 年～平成 42 年中位予測）

## (2) 将来の交通の動向

### (a) 市町村別の発生集中量の増減

- 市町村別にみると北中城村と南城市以外の市町村で発生集中量の増加が予測されており、人口同様に都市圏軸上の市町村でもトリップ数の増加が見込まれている。
- 浦添市では、平成18年の2.6万トリップエンド/km<sup>2</sup>から平成42年の3.2万トリップエンド/km<sup>2</sup>に約19%の増加が見込まれる。

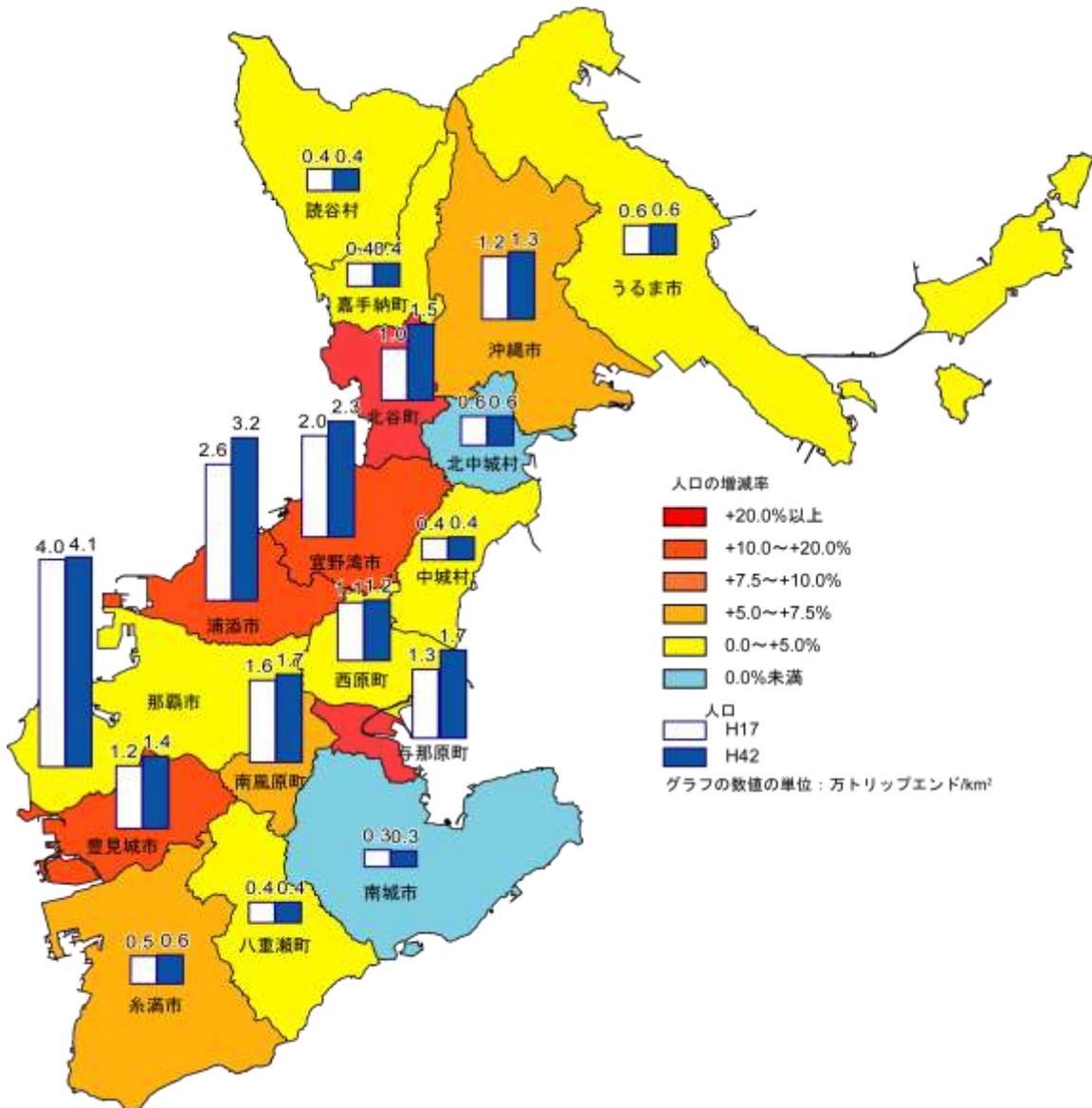


図 3-7 市町村別の発生集中量の増減

(b) 浦添市内の発生集中量の増減

- 浦添市内では、人口同様に平成 18 年から平成 42 年にかけて、全域的に増加基調にある。
- 返還が見込まれる牧港補給基地跡地や区画整理（浦添南第一・第二地区）が行われている前田・経塚・沢岬のあるゾーンで人口増加が 20%以上の増加と著しい。

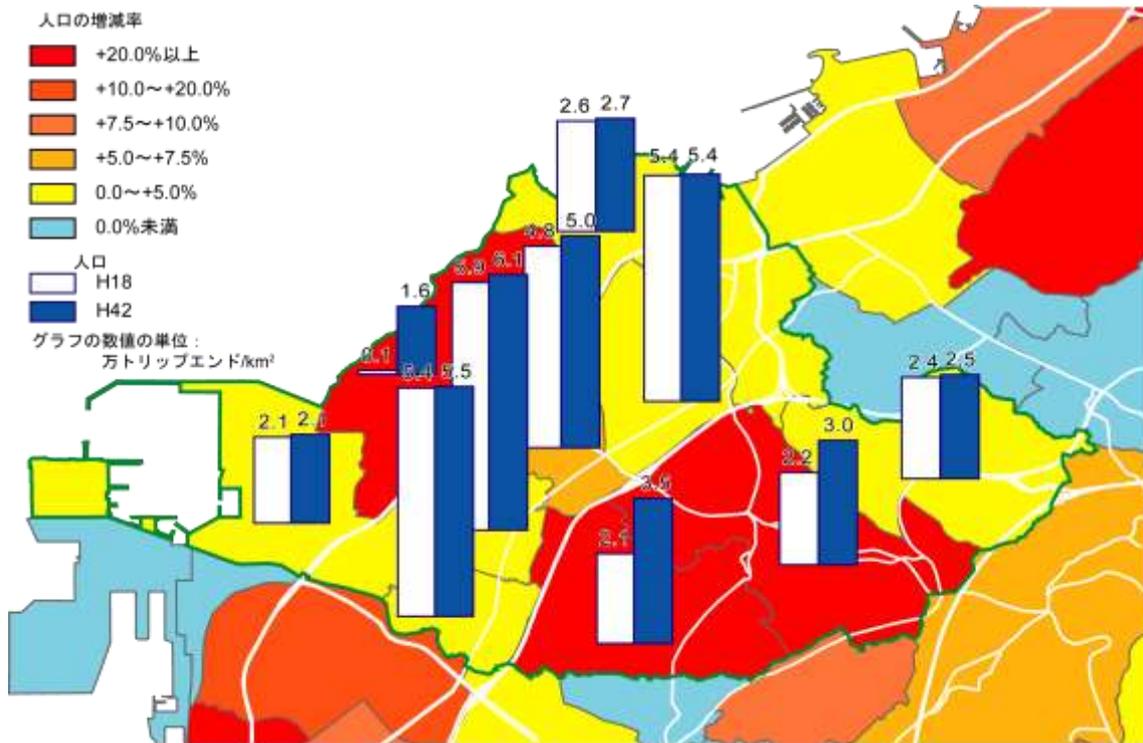


図 3-8 Cゾーン別の発生集中量の増減



- 浦添市発着の OD ペアに着目すると、浦添市内における隣接するゾーン間の OD は 5,000 トリップ以上ある。
- 浦添市内のゾーンと隣接する市外のゾーンでも OD が 5,000 トリップ以上と活発であり、特に那覇市新都心の位置するゾーンでは、牧港補給基地跡地のゾーンを除く全域から 5,000 トリップ以上の OD がある。
- OD の増減に着目すると、牧港補給基地跡地発着の交通と市街地整備が進められている前田、沢岬を含むゾーンの発着交通が増加している。

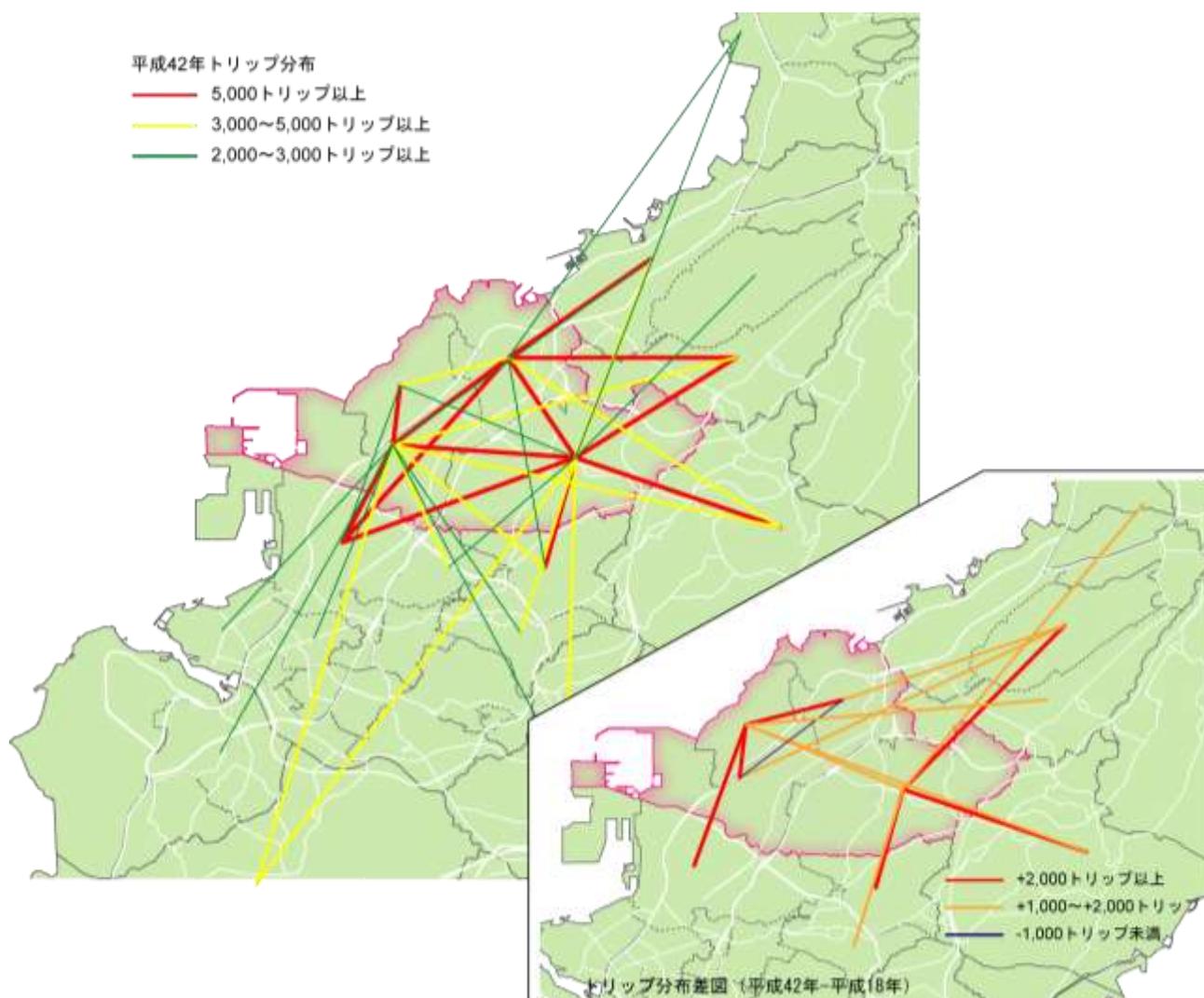


図 3-10 浦添市発着のトリップ分布（H42）



3-2-2 目指すべき都市の将来像

■国全体の方向性及び動向

- ・交通基本法（交通に対する基本的なニーズの充足、交通の機能の確保及び向上、交通による環境への負荷の低減、交通の適切な役割分担及び有機的かつ効率的な連携、連携等による施策の推進、交通の安全の確保について交通安全対策基本法と十分に連携）
- ・低炭素社会の実現（集約型都市構造の実現、交通流対策の推進、公共交通機関の利用促進）
- ・集約型都市構造の実現（人口減少社会における効率的な都市経営の実現、歩いて暮らせるまちづくり）
- ・観光立国（国内外の交流促進、地域経済の活性化、雇用機会の創出、国際相互理解の推進）
- ・人重視の道路創造（歩行者・自転車等の安心・快適な通行空間の確保、沿道と道路空間が一体となって多様な空間や良好な景観等を形成）

■沖縄県土全体及び中南部都市圏の上位・関連計画

- ・沖縄21世紀ビジョン（島しょ圏沖縄を結ぶ交通ネットワークの構築：道路ネットワークの構築、新たな公共交通システムの導入、基幹バス・コミュニティバスの充実、自動車の低炭素化）
- ・沖縄県総合交通体系基本計画（本県の国際性・拠点性を高める広域交通体系の拡充、都市構造を誘導・支援するモビリティの高い骨格交通体系の拡充、都市交通の円滑化を推進する総合的な交通施策の推進）
- ・TDM推進アクションプログラム（自動車交通の適正化、公共交通の利用促進、魅力ある街づくり）
- ・沖縄県広域道路整備基本計画（ゆとり社会の実現（圏域中心都市までの30分圏域の確立、那覇市～名護市間の1時間以内の連絡等）、高規格幹線道路と一体的に機能する幹線道路網の整備促進）
- ・都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（環境・振興・安心の3つが調和・持続する都市圏交通の構築）
- ・沖縄本島中南部都市圏都市交通マスタープラン（環境：車を増やさない不必要な車利用を削減、振興：目指す都市構造・土地利用・振興策を戦略的に誘導、安心：安全・安心な社会を構築）

【実現に向けた取り組み】

- ・ハンゴ道路網の構築（南北を支える強固な3本柱、柱を支える東西連絡道路、ICの増設、モノレールと高速バスの連携）
- ・那覇都市圏交通円滑化総合計画の推進（道路整備（2環状7放射）、経路の分散、手段の分散、時間の分散）
- ・沖縄都市モノレールの延長（首里～西原入口（高速道路）の延長）
- ・那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市地域公共交通総合連携計画の策定（国道58号を中心に基幹バスシステムの導入）
- ・沖縄本島中南部都市圏総合交通戦略の策定（モノレール延長エリア、国道58号沿線エリア）

■浦添市の上位・関連計画

- ・第4次浦添市総合計画：「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」を目標
  - 土地利用の方針（【自然・歴史との共生】【都市の拠点づくり】【都市の軸づくり】）
  - まちづくりの方向/5つの政策（【希望と活力にあふれた生活創造都市】【世界へ翼を広げる交流文化都市】【ともに支え合う健康福祉都市】【安全安心でやすらぎに満ちた快適環境都市】【ひと・まち・未来が輝く市民協働都市】）
- ・浦添市都市マスタープラン
- ・浦添市景観まちづくり計画
- ・浦添市地域防災計画
- ・牧港補給地区跡地利用基本構想

■将来の人口と交通の動向

- ・中南部都市圏内の市町村と比較しても、人口・発生集中量ともに高い増加基調を示すが（H42ピーク）、高齢化は急速に進展
- ・牧港補給基地跡地や区画整理（浦添南第一、第二地区）が実施されている前田・経塚・沢砥では人口が20%以上増加するとともに、発生集中量も増加
- ・浦添市関連のトリップは全体的に増加基調を示し、通過交通の増加が顕著

■浦添市交通基本計画における目指すべき浦添市の都市の将来像

- ①浦添市の自然環境・歴史環境などの資源を活かした都市
  - ・都市に潤いと安らぎを与える自然・歴史資産の保全・創出を図るとともに、社会全体の責務である環境負荷が小さく持続可能な都市の実現
- ②浦添市の拠点づくりと各拠点の都市機能を活かした都市
  - ・沖縄本島中南部都市圏の中核都市として、経済や文化・交流などの舞台づくりを進め、伝統文化と新たな市民文化が融和し、未来へ息吹が感じられる個性豊かな魅力あるまちづくりを進めるため、各地域の特性と可能性を活かした都市拠点の形成
  - ・さらなる都市機能の向上を目指し、都市の拠点の相互連携を図る交通体系の実現
- ③浦添市の骨格を形成するとともに都市の軸の特性を活かした都市
  - ・浦添市の骨格を形作り、各地域の土地利用や拠点の配置と連携することで魅力ある空間を連続的に創出する都市の軸を形成
  - ・都市軸の特性を踏まえ、軸の魅力を高める交通空間の創出
- ④浦添市に住む人、訪れる人にとって安心安全な生活空間を創出する都市
  - ・全ての人が、安心して安全な生活を享受できる生活空間の創出
  - ・高齢者等の移動制約者が不自由なく移動できる交通環境（道路構造、公共交通システム）を構築





## (1) 土地利用計画

上位計画・関連計画及び浦添市の交通課題を踏まえ、浦添市総合計画及び浦添市都市マスタープランに基づき土地利用計画を整理する。

### (a) 土地利用ゾーン

#### ①都心ゾーン

浦添城跡から国道 58 号に至る浦添西原線沿いは、文化、スポーツ・レクリエーション、行政などの学習交流拠点や商業・業務拠点、歴史・文化拠点が位置するゾーンである。

このゾーンは、「てだこ都市文化」を発信し、ヒト・モノ・情報が行き交う浦添市の顔として、それぞれの拠点の整備を図るとともに、ゾーンへのアクセスを整備する。

また、浦添市のシンボルロードの一端を担う浦添西原線は、豊かな緑陰で被われたゆとりある歩道を確保するとともに、それぞれの特性に応じた個性ある沿道景観を創出する。さらに、主要箇所にはポケットパーク等を設けることにより、にぎわい空間の創出や、歩いて楽しい交流空間を形成する。

#### ②ウラオソイ文化・交流ゾーン

浦添城跡、伊祖城跡、浦添大公園一帯の歴史・文化拠点、沖縄国際センターを中心とした人的交流の拠点である国際交流拠点、及び運動公園やカルチャーパークが立地する学習交流拠点が位置するゾーンである。

このゾーンを浦添市の過去から現在に至る国内外交流をはじめ、さまざまな市民活動が展開する交流空間として整備する。そのためには、浦添グスクの復元などによる歴史的環境を創出するとともに、遊歩道を含めたアクセスを整備する。また、水と緑の環状軸と一体となった豊かな緑地の保全・育成を図る。

#### ③生産ゾーン

港川から牧港の臨海部にあつて、工場が集積する地域と牧港漁港や車海老養殖場、海ぶどう養殖場が位置するゾーンである。

工業と水産業の双方の調和ある発展が図られるよう、生産基盤の拡充を図るとともに、工場用地内の環境改善と市民に親しまれやすい水産業施設の整備、さらには港川小公園から陸運事務所に至る斜面緑地の保全・育成を図り、水と緑の環状軸を補強する。

#### ④リゾート・レクリエーションゾーン

那覇港港湾計画において、浦添ふ頭コースタルリゾート地区として位置づけられ、沖縄県の国際観光交流拠点の形成を目指した海域ゾーンである。

豊かな自然海域環境を保全しつつ、マリナーや海洋緑地等の多様な海洋レクリエーション施設を整備するとともに、ホテル、ショッピングモール等の観光交流施設を併せて配置し、市民はもとより観光立県沖縄の一翼を担う魅力あるアーバンリゾート空間の形成を図る。

#### ⑤港湾・流通・情報ゾーン

那覇港港湾計画において、浦添ふ頭と位置づけられているゾーンである。



## (b) 主要都市機能の配置

### ①学習交流拠点

市役所をはじめ、図書館、美術館、てだこホール等が立地するカルチャーパークと、市民体育館や市民球場等を備えた運動公園は、行政・文化・スポーツ機能が集積した浦添市の拠点である。

各種行政サービスや文化活動、スポーツ・レクリエーション活動など、快適で利便性の高い学習交流環境を整備する。

### ②商業・業務拠点

浦添都市軸と国道 58 号で構成される商業・業務機能が集積した拠点である。

ロードサイド型商業施設と近隣商業施設が立地し、ショッピングとビジネスなどが共存する複合型の都市形成を促進する。

### ③歴史・文化拠点

浦添大公園、浦添城跡や伊祖公園の一带は、浦添市の歴史と文化を象徴する機能を有した拠点である。

浦添城跡と伊祖城跡などの史跡と緑地空間を活かし、琉球のあけぼのともいえる歴代の浦添王統を学び、語る場として整備・活用する。

### ④国際交流拠点

沖縄国際センターを中心にした市民と国外研修生との交流の拠点である。

各国文化の総合理解と人的交流が日常的に、気軽に展開されるゆとりのある空間を整備する。

### ⑤文化交流拠点

国立劇場おきなわや浦添市産業振興センター・結の街の文化交流・発信機能と産業機能を有した拠点である。

沖縄県の伝統芸能の継承・発展に資する広域的な文化施設と浦添市民の交流活動拠点としての活用を進める。

### ⑥総合交通拠点

モノレール第四駅と沖縄自動車道との交通結節の機能を有する拠点である。

沖縄都市モノレールと沖縄自動車道を結ぶ交通結節拠点を形成するとともに、交通の利便性を支えるサービス関連施設等の整った総合的な交通拠点を形成する。

### ⑦複合交流拠点

西海岸道路と浦添都市軸が交差する周辺のポテンシャルを活かした、新たな機能を有する拠点である。

将来の牧港補給地区跡地利用計画を先導する商業・業務の集積を図り、浦添市の産業・経済活動の拠点の形成に努める。

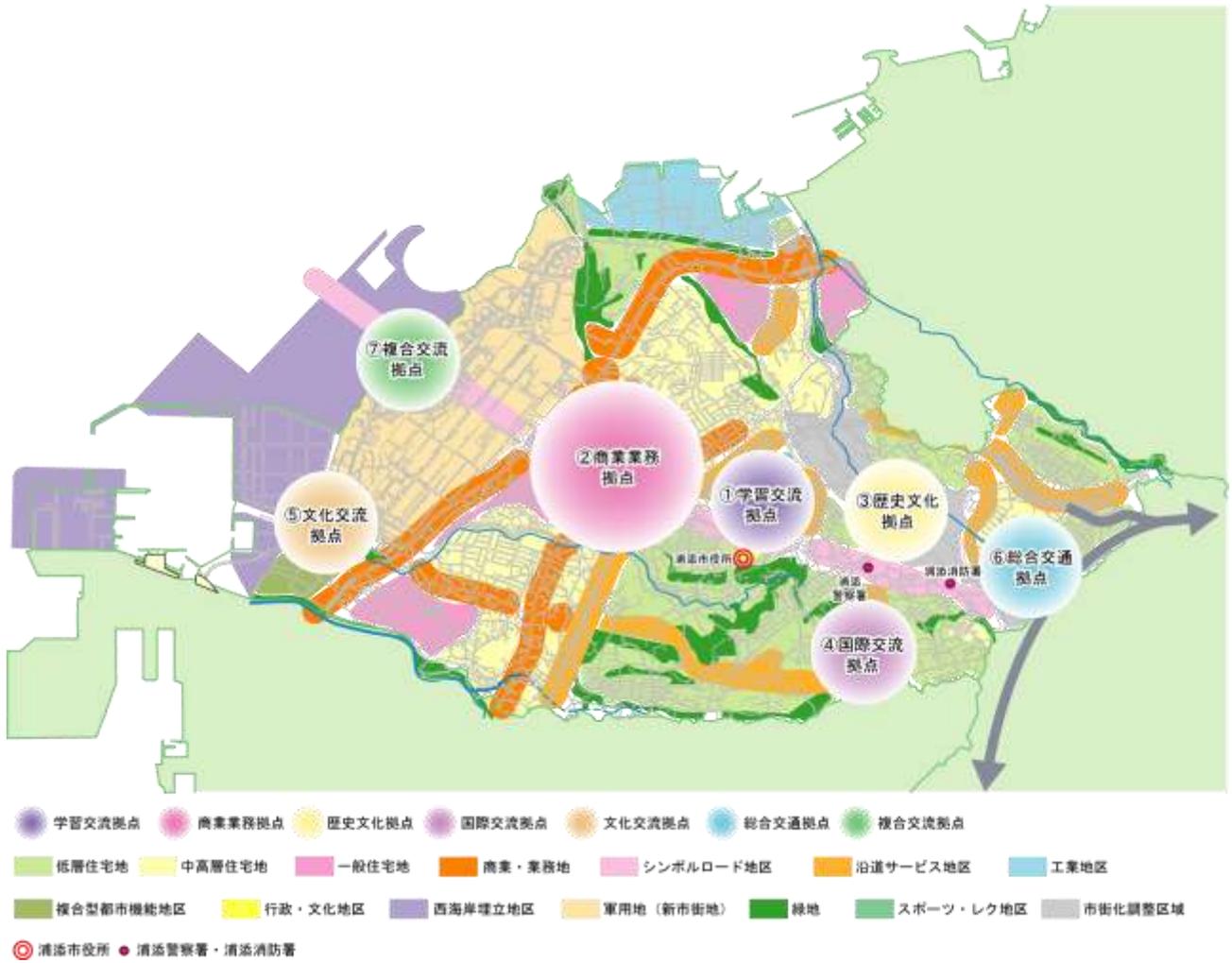


図 3-12 主要都市機能の配置

## (c) 都市の軸

### (i) 都市圏軸

浦添市を南北に縦断する都市圏軸で、沖縄本島中南部都市圏の骨格軸となる都市軸である。

都市圏軸には、沖縄本島中南部都市圏の都市拠点（那覇都心、新都心、沖縄（市）都心）、基地跡地利用拠点が配置され、都市圏はもとより沖縄県の社会経済活動を支える都市圏軸で、骨格的な公共交通ネットワーク等の整備を進める。

### (ii) 浦添都市軸

#### ①シンボル軸

浦添市の東西を横断する県道浦添西原線から浦添ふ頭地先に至る浦添都市軸（シンボル軸）は、浦添市の顔づくりの骨格となる都市軸である。

浦添都市軸には、東からウラオソイ文化・交流ゾーン、都心ゾーン、新都市形成ゾーン、リゾート・レクリエーションゾーン、港湾・流通・情報ゾーンなどの各ゾーンが展開している。これらのゾーンを連携し、ゾーンごとにさまざまな表情を演出する、浦添市の顔となるシンボルロードとして整備する。

#### ②生活軸

浦添市の南北を縦断する県道那覇宜野湾線（パイプライン）から県道 153 号線に至る浦添都市軸（生活軸）は、浦添市の生活の中心となる都市軸である。

浦添生活軸は、浦添都市軸との交点である商業業務拠点を中心に、浦添市の生活商業施設が南北に連なり、生活のにぎわいを創出する、浦添市の生活の中心となる移動し易い交通環境を整備する。

### (iii) 交通の軸

#### ①広域都市軸

市域を南北に縦断する国道 58 号、国道 330 号、中部縦貫道路、沖縄西海岸道路、市域を東西に横断する県道浦添西原線などの広域幹線道路で構成する。

産業や生活活動の広域化に対応するとともに、都市ゾーンをはじめ、港湾・流通・情報ゾーン、リゾート・レクリエーションゾーンなどの各ゾーンにおける都市活動を支援し、さらに中南部都市圏の市街地を支える軸線として整備を促進する。

#### ②環状軸

沢岬石嶺線、国際センター線、(仮称)国際センター線延伸、県道 153 号線バイパス及び国道 58 号宜野湾バイパスの環状道路で構成される。

環状軸は、広域都市軸から市域内へのアクセス機能及び都心ゾーンへ集中する交通の集散機能を有しており、これらの整備を進めることで市域内の道路網の連結を強化し、市民の利便性の向上を図る。

### ③軌道交通軸

沖縄都市モノレールの延長路線は、那覇空港から首里までの既存路線を経て、沖縄国際センター、浦添城跡、総合交通拠点の主要拠点などを結ぶ新たな広域公共交通の軸であり、沢岬石嶺線の一部、国際センター線、県道浦添西原線の一部で構成する。

浦添グスク観光や浦添中心部と連携した浦添都市軸の形成、国際交流や沖縄の文化が感じられる緑の街道を形成する。さらに、市民や観光客等の交通利便性の向上や新モノレール駅を中心としたまちづくりの推進を通して、地域の活性化に寄与する軸線として整備を進める。

### ④歴史文化軸

県道 153 号線は、ウラオソイ文化・交流ゾーン从那覇市首里に至る広域的な歴史・文化の道である。

市民の生活軸としての役割を担うとともに、三王統から尚王統へと琉球王朝の歴史の道をたどる道でもあり、「琉球歴史廻廊」としての活用を基本に、歴史文化の交流を通して浦添市の活性化への寄与に努める。

### ⑤水と緑の環状軸

浦添市を流れる小湾川、牧港川、安謝川、宇地泊川（比屋良川）の河川や、浦添大公園を中心に伸びる浦添丘陵の緑地、市域南部の丘陵の緑地、小湾川下流から港川に至る臨海部の緑地や海岸線など、浦添市を取り囲む環状帯で構成される。

浦添市の歴史・文化を育み、市民の生活を優しく包み込むクサティ森を保全・育成するとともに、公園、河川、学校、道路等の公共施設や海岸線の緑化など、緑の保全・創出及び水辺空間と一体となった安らぎと潤いのある空間を創出するなど、水と緑のネットワークの形成に努める。



図 3-13 都市の軸

